

AMDA ネパールで運営の子ども病院

国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市北区椿津)は、ネパールで運営する「AMDAネパール子ども病院」に周産期病棟を増築する資金を集めるため、病院の大切さを伝える絵本「ありがとうね」(A5判、36頁)を作製し、販売している。(洞井宏太)

周産期病棟 増築資金に

計画では、新病棟は平屋の約千平方メートルで建設費約3千万円。現地の商工会議所の負担と一般からの寄付、絵本の売り上げを充てる。

絵本は、AMDA兵庫県支部の鈴記好博医師「淡路市」が製作。病院の建設によってお気に入りのお産場所を失った牛が、人間の友だちの母親が難産で入院し無事出産したことで病院の必要性に気付くという物語。

日本語版(2千部)とネパール語・英語併記版(1千部)を作り、AMDA本部とAMDA社会開発

絵本作製し販売

牛主人公に大切さ訴え

機構(岡山市北区蕃山町)で一部500円で販売している。

鈴記医師は「互いに感謝し合う大切さを伝えなかった。親子で楽しんでほしい、ネパール支援に貢献して」と呼び掛けている。問い合わせは同機構(086-232-8815)。

同病院はネパール中西部アトワール市に1998年開設。小児科、産婦人科の計50床でスタートし、利用者が年々増加。分娩数も2008年は2638件と10年間で約7倍に増え、ベッドが不足している。



AMDAが販売している絵本「ありがとうね」